



院内感染対策だより 第54号 R3. 12. 20

院内感染対策マニュアル改訂

「院内感染対策マニュアル」をR3年11月に改定しました。院内感染対策マニュアル本体では「CVルートのプラグ交換」や「三方活栓の消毒」についての追記や「燃える廃棄物の袋の色の変更」があります。新型コロナウイルス感染対策マニュアルでは、防護具、検査時の待機場所、廃棄物、面会、検査、治療薬など全体に改訂箇所があります。みなさん、各部署配置のマニュアルでご確認をお願いします。

ページ	項目	改訂内容（一部抜粋）
院内感染対策マニュアル p117～119	 血流経路別対策	<ul style="list-style-type: none"> CVと輸液ルートの接続にクレープコネクターを使用の場合は汚染が無ければ1週間に1回交換する 三方活栓の使用は最小限度とし、不必要な数の活栓は付けない。 三方活栓（開放式・閉鎖式）を使用する時は孔をしっかりと酒精綿（単包）で一方に消毒する。 開放式三方活栓の場合は使用した後は蓋（BD®プラグ）を使用して蓋をする。
p149	廃棄物分別一覧表	<ul style="list-style-type: none"> 燃える廃棄物は無色透明な袋（青色ビニール袋はストックがなくなり次第使用しない。）
新型コロナウイルスマニュアル全頁	1) 標準予防策の徹底 3) 外来患者への対応 6) 入院患者への対応 面会制限 別表2 新型コロナウイルス感染症入院時の対応 別表5 新型コロナウイルス検査	<ul style="list-style-type: none"> 無症状あるいは症状が軽微な職員から他の職員や患者への感染を防ぐために、すべての職員が院内では常時サージカルマスクを着用する。（ユニバーサルマスク着実施） 救急搬送者を対応する場合は発熱や呼吸器症状についての情報が不十分なことが多いため、N95マスクの機能に相当するマスク、眼の保護、ガウン、手袋などを装着し、対応する。 一般入院患者の面会に関しては流行状況に応じ病院で検討し、決定する。 隔離区域内の清掃（室内に清掃品設置） 汚染リネンの処理（アルコール噴霧し1週間保管。ピンク色の専用ランドリー袋に入れて運搬） 退院後の清掃（紫外線殺菌機の照射方法の記載） 抗原定量検査、迅速核酸検査（IDNOW）、PCR検査について採取キット、依頼方法、専用連絡票の書き方、採取方法、結果報告方法などを整理して記載



COVID-19 治療薬の追加および削除

院内感染対策マニュアル「新型コロナウイルス感染対策」の治療薬についても改訂があります。

2021年11月現在、当院で治療に使用できる薬剤は下表のように、**6種類**となっています。このうち**ベクルリー**は**薬価収載され国による無償配分の薬剤ではなくなります**。それに伴って特例承認薬剤使用同意書が不要となりました。また診療の手引き第6.0版（10月28日）では**アピガン錠**、**アクテムラ点滴静注用**が国内で開発中の薬剤に分類されました。このように短期間に治療薬、検査、ワクチンが開発・更新され、政府の対応も変化し、現場の対応も変化しています。当院も適時更新してまいりますのでご確認をお願いします。

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）治療

薬剤名	その他
ベクルリー®点滴静注液 100 mg ベクルリー®点滴静注用 100 mg	適応使用（2021年8月12日以降）
ロナプリーブ注射液セット（1332） ロナプリーブ注射液セット（300）	特例承認薬剤（国による無償配分薬剤）
アピガン®錠 200 mg	適応外使用、 使用成績調査薬剤、使用後に報告義務 粉碎不可（催奇形性あり）、簡易懸濁可
アクテムラ®点滴静注用 200 mg	適応外使用
デカドロ®錠 4 mg デキサート®注射液 1.65 mg	適応使用 粉碎可、簡易懸濁可、経口・経管・静注いずれも可
オルミエント錠 2mg オルミエント錠 4mg	適応使用 粉碎不可

コラム 抗菌薬適正使用について（AST活動で感じること）

抗菌薬適正使用支援活動を約10年行ってきました。最近、**熱発時の血液培養が以前より多くなっている**ように感じます。スタッフの皆さんの意識が向上し、より積極的に実施されているのではないのでしょうか。一方、**推定感染フォーカスに関連する部位の細菌検査（尿培養、痰培養）がない**こともあります。最近の症例では白濁尿で尿路感染を疑っているのに血液培養だけで尿培養がないものがあります。血液培養は陰性であったため起菌不明・感受性不明となり抗菌薬の再選択（適正使用）ができませんでした。**血液培養が陽性であれば、抗菌薬を選択する非常に有用な情報の一つ**となります。しかし陰性であった場合その他の細菌検査情報が感染フォーカスの推定や、抗菌薬を選択する手助けとなります。**血液培養とともに感染推定部位の培養実施**をお願いいたします。

記：薬剤部：加藤貴子

